

# 包絡分析法を用いた地域特性の発見と 発想支援に向けた WebGIS の開発

長瀬 永遠

富山県立大学 情報基盤工学講座

June 18, 2021

## 研究の背景

リーマンショック以降、年々減少していた日本の自殺者数が昨年、11年ぶりに増加したことが話題になっている。また、近年の自殺者数は平成10年代と比較すると概ね減少傾向にあるが、若年層世代の死因第一位は依然として「自殺」であり、死因の3割～5割がこれにあたる。この数値は他の先進国と比較しても極めて高い値となっている。

## 研究の目的

包絡分析法（DEA）を用いて地域特性を分析することで、対象地域の潜在的な自殺を誘引する要因、自殺を遠ざける要因の発見を支援する WebGIS ツールを作成する。



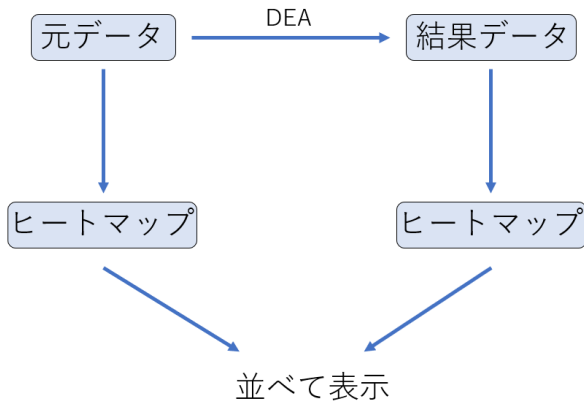


図 1: システムのイメージ図

- 1 ヒートマップの重ね合わせができる WebGIS の作成.
- 2 実際のデータを使ってヒートマップを作るシステムの作成.
- 3 DEA を用いてデータを分析するシステムの作成.
- 4 上記を一息に動かせるようにする.

# 今やっていること

6/7

はじめに  
包絡分析法  
提案手法  
現状報告

デモ

- 1 まずは自殺者数のデータからヒートマップを作成するシステムを作成
- 2 DEA の勉強と使用するデータの選定
- 3 DEA を行うシステムの作成